

○実施内容 5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート

○対象：小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年

○実施児童数 5年生：69,330人
6年生：69,365人 合計：138,695人

小学校5・6年【わくわく問題（教科横断型問題）】

わくわく問題（教科横断型問題）の観点について

わくわく問題では、すべての教科や活動などで必要な5つの力を問いました。

- A：図や表、文章などのつながりを見つけ、正しく理解する力
- B：図や表、文章などのつながりを見つけ、正しく理解し、自分の考えを持ち伝える力
- C：図や表、文章などのつながりを見つけ、新しく課題を考える力
- D：図や表、文章などのつながりを見つけ、順序よく筋を通して考える力
- E：意欲を持って、工夫して相手に伝える力

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) |
|---------|--|----------|----------|
| | 全体 | 10 | 60.1 |
| 観点 | A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。 | 3 | 48.1 |
| | B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。 | 5 | 67.4 |
| | C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事から考える。 | 2 | 61.0 |
| | D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。 (プログラミング的思考) | 1 | 27.9 |
| | E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。 | 2 | 80.2 |
| 問題をとらえる | 文章から読み取る | 3 | 76.3 |
| | 会話から読み取る | 4 | 57.0 |
| | 図や表から読み取る | 6 | 53.4 |
| 伝える | 資料の情報を整理して伝える | 3 | 45.9 |
| | 自身で考えたことを伝える | 7 | 71.0 |
| | 理由や根拠を明確にして伝える | 2 | 54.0 |
| 問題形式 | 選択 | 1 | 41.2 |
| | 図表 | 3 | 46.0 |
| | 記述 | 6 | 70.3 |

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

良好

- 1つの資料から内容を読み取ること
- 自分が伝えたいことについて、複数の資料の中からふさわしい資料を選び、根拠をもって自分の考えを伝えること
- 自分の考えを自由に表現すること

課題

- 資料に示された数値と文章等を関連付けて読み取り、内容を捉えること
- 複数の文章（会話文）から読み取った情報を関連付けて、適切にイメージして図に示すこと
- 図や表の情報を関連付けて、順序良く論理的に考えること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★資料に使われている表やグラフなどは、何を伝えるための資料なのか考えるようにしましょう。
- ★情報を比べたり結び付けたりするためには、大事だと思ったところに印をつけたり線を引いたりして考えるようにしましょう。
- ★自分の考えを伝えるためには、伝えたいことを書きだして、順番を決めたり分類したりするなど整理して表現しましょう。
- ★普段から、疑問に思ったことについて、本やインターネットで調べたり、周りの人に聞いたりして、自分の考えに根拠をもってまとめてみるようにしてみましょう。

小学校5年【国語】

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) |
|------------|-------------------------------|----------|----------|
| | 全体 | 20 | 81.6 |
| 学習指導要領の領域等 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 17 | 82.4 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 1 | 80.8 |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 2 | 75.5 |
| 評価の観点 | 思考力、判断力、表現力等 話すこと・聞くこと | - | - |
| | 書くこと | 5 | 75.4 |
| | 読むこと | - | - |
| 問題形式 | 知識・技能 | 20 | 81.6 |
| | 思考・判断・表現 話すこと・聞くこと | - | - |
| | 書くこと | 5 | 75.4 |
| 問題形式 | 主体的に学習に取り組む態度 | - | - |
| | 選択式 | 10 | 84.7 |
| | 短答式 | 10 | 78.5 |
| | 記述式 | - | - |

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

良好

- 文脈に沿った言葉の意味やその対義語の理解

課題

- 主語にあうように述語を適切な文型に直すこと
- 接続語を用いて二文を一文に書き直すこと

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★文を書く時は、言葉の使い方でのように伝わるか考えて書き、できた文章を見直すようにしましょう。

小学校5年【算数】

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) |
|-----------|--------------------|----------|----------|
| | 全体 | 7 | 48.5 |
| 学習指導要領の領域 | 数と計算 | 3 | 43.5 |
| | 図形 | 2 | 36.3 |
| | 測定/変化と関係 データの活用 | 2 | 56.8 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 5 | 55.1 |
| | 思考・判断・表現 | 2 | 32.0 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | - | - |
| 問題形式 | 選択式 | 2 | 45.6 |
| | 短答式 | 3 | 61.4 |
| | 記述式 | 2 | 32.0 |

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

良好

- 折れ線グラフの数値を読みとること

課題

- 長方形の周りの長さを求めること
- 伴って変わる2つの数量の関係を理解し、言葉や式で表現すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★問われていることが何なのか、印をつけたり線を引いたりしながら、問題を読むようにしましょう。
- ★式と言葉、図などを使って、自分の考えや解き方の説明をしてみましょう。

小学校5年【理科】

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) |
|-----------|---------------|----------|----------|
| | 全体 | 10 | 49.2 |
| 学習指導要領の領域 | 物質 | 1 | 61.3 |
| | エネルギー | 4 | 50.0 |
| | 生命 | - | - |
| | 地球 | 5 | 46.1 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 6 | 54.2 |
| | 思考・判断・表現 | 4 | 41.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | - | - |
| 問題形式 | 選択式 | 7 | 51.5 |
| | 短答式 | 2 | 52.0 |
| | 記述式 | 1 | 27.2 |

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

良好

- 方位磁針の正しい使い方や磁石に引き付けられるものなどの基本的な理解

課題

- 実験観察の結果から考察し表現すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★「何のために実験や観察をするのか」「どんな結果が予想されるか」などを考えて、結果と自分の予想を比べながら考察するようにしましょう。

令和3年度小学生すくすくウォッチ結果概要 ～アンケート～

「未来に向かう力」と「好奇心」について

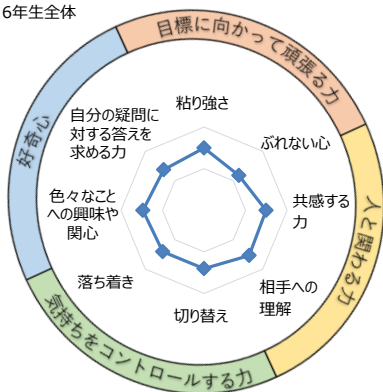
子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大事です。非認知能力について、大阪府教育庁では、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つとし「未来に向かう力」(*)として定義しました。また、新たな知識や経験を探究する原動力となる「好奇心」も大事と考え、アンケートによりその状況もたずねました。

※参考 (※) 『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』リーフレット ダウンロードページ
https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/17339/00355268/mirai_all.pdf



QRコード

5・6年生全体



児童全体の状況を見ると、大阪の子どもたちは「人と関わる力」が他の力に比べて高く、他者と友好関係を築くことができ、親しみやすい性格であると考えられます。また、相手の立場に立って理解しようとするなど、他者の気持ちを思いやる力があると考えられます。一方、「目標に向かって頑張る力」のうち、「ぶれない心」が他に比べて低い傾向であることから、自分の興味・関心を持ち続けることなどが課題と考えられます。

「未来に向かう力」や「好奇心」を育むために

アンケートの分析から、子どもたちの「未来に向かう力」や「好奇心」を育むために、よい影響があると思われるものが見つかりました。学校での授業や普段の生活の中で、以下のようなことに取り組んでみましょう。

《学習で取り組んでほしいこと》

- ・自分の考えをノートに書きましょう。
- ・友だちや先生の話していることで大事だと思ったことはノート等にメモしてみましょう。
- ・文章を読むときは、どこが大事なところなのか考えながら読んでみましょう。
- ・話し合いでは、自分の意見と友だちの意見を比べながら聞きましょう。

《普段の生活で取り組んでほしいこと》

- ・朝ご飯を食べましょう。
- ・本を読みましょう。できれば毎日少しずつでもいいので、本を読む習慣をつけましょう。
- ・テレビや新聞等でニュースを見たり読んだりしてみましょう。

《保護者の方へ》

- ・お子さまのよいところを積極的に見つけてほめてあげてください。



©2014 大阪府もずやん

児童アンケート

肯定的な回答が多かった項目

| 質問内容 | 肯定的回答 |
|----------------------------|-------|
| あなたの学級は、日直や係の仕事を頑張っている | 87.0% |
| 話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている | 88.9% |
| あなたは、困ったときに相談できる友だちがいる | 88.0% |
| あなたの学級は、友だちが困っているときには助け合う | 84.0% |

肯定的回答が少なかった項目

| 質問内容 | 肯定的回答 |
|-----------------------------|-------|
| わからないことがあった時は、調べて解決しようとしている | 57.4% |
| 話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている | 59.3% |
| 自分の考えを積極的に発言している | 51.4% |

児童アンケートから、子どもたちは自分に任された仕事に対して責任感を持って取り組んでいることや、友だちが困っているときに助け合うなど友だちを大切にしていることがわかりました。これらの力は、大人になっても大切な力です。これからも進んで自分の仕事に取り組み、仲間と協力して学習したり、遊んだりしましょう。

一方、肯定的な回答が少なかったのは、自分の考えを積極的に発言することでした。自分の考えを自信をもって話すためには、まず、その内容を理解することが大切です。分からないことがあれば調べてみましょう。周りの人に聞いてみるのもいいですね。そして、話し合いなどでは人の意見をよく聞き、自分と友だちの意見の「どこがちがうのか」や「どこが同じか」などを考えることで、自分の考えを深めたり広げたりすることにつながります。

教員アンケート

教員アンケートから、学校では児童の実態を共有するための機会を年に複数回設定するなど、子どもたちを見守る組織体制が整っていることがわかりました。また、こうした体制のもとで、児童一人ひとりの個に応じた指導につなげるために「児童の実態に応じた教材・教具の工夫」や「児童の学習意欲の向上を図るための、授業での導入の工夫」など、授業研究が進められていることがわかりました。

一方で、「考えが深まるよう、意見を比較したり、分類したり、関係づけたりする等の具体的な手法の指導」については、肯定的な回答の割合が約77%と、学校が児童の考えを深める指導に難しさを感じていることが伺えました。このような課題を解決するためには、話し合いの場面で、単に「グループで自分たちの考えを話し合ってください。」と指導するのではなく、例えばシンキングツールを活用するなどしてみましょう。考えるための具体的な方策を指導することで、児童がグループの意見を「分類」したり「比較」したりする助けになったり、それぞれの意見を可視化して自分の考えを整理したり深めたりすることができます。

また、話し合いをさせる際に指導者が、児童の意見を事前に把握し、発言の順番を考えて意図的に指名することで、児童がそれぞれの発言のつながりに気づき、考えを広げることができます。

併せて、各教科の結果から見えた課題について、再度、丁寧な指導を進めましょう。

具体的な指導方法については、今後、研修や参考資料でも示していきます。

■今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

■すくすくウォッチの問題および解答については、以下のURLよりご覧いただけます。

○令和3年度すくすくウォッチ https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/r3_monndai.html